

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

三年生の3月は消化試合ではない

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちの白木蓮や桃が咲きはじめました。一雨ごとに景色が華やかに彩られてきます。三年生が4月から歩き始める進路先も決まり、卒業式の時期となりました。

ところで、これまで私が経験した中学校で、3月になるとしばしば聞こえてきたのは「卒業まであと～日」という声です。カウントダウンと言えば聞こえはいいのですが、その裏には「早く三年生が卒業してくれないか」と思う気持ちが見え隠れしていました。

「進学先が決まると、生徒たちが目標を失ってしまう。」「成績が出たら歯止めが利かなくなってしまう。」「何事もなく一日一日を過ごさせるのは大変だ。」など、教員にとって卒業遠足がこの流れの中にあつたことも否定はできないと思います。

でも、数は多くはないですが、3学期になると学校にこなくなったり、進路が決まるとまだ受験がある仲間がいるのにも関わらず髪を染めたりする生徒の姿を目にするたびに、「中学校の目標は進学先が決まることなのか？」「成績は生徒の行動をコントロールする道具なのか？」と違和感をぬぐえませんでした。

自分が学年の柱となった時に同僚と話し合ったのは、進路が決まってからの生徒たちの姿を真摯に受け止めよう、ということです。良くも悪くもテストや成績は、生徒にとってくびき（手かせ足かせ）でもあります。それが無くなった時の方が、本当の子供たちの姿に近いのではないのでしょうか。

3年生の最後は、校舎内外の美化、別れの言葉作成、合唱練習だけでなく、短い期間でやらなければならない事が山積みです。そんな時に生徒たちがてんでばらばらで、教員が声をからしてやらせようとしなければならないのか、そうでないのか・・・三年生の3月は消化試合どころか、3年間の学年経営、学校のあり方が問われる勝負の時なのです。

「いい卒業式でした。」という3年間の一点を切り取る様な陳腐な言葉でなく、進路が決まった者から、卒業に向けての準備、3年間の総まとめに主体的に取り組んでいる。そしてまだ進路が決まっていない仲間たちのことも自然に思っている。そんな生徒たちのすぐそばにいられることこそ、中学校の教師冥利だと思います。

今年の三年生たちは自分のたちの進路を切り拓くとともに、この短い期間の中で、部活動の後輩を応援し、自分たちの仲間の縁を深める“お楽しみ会”を企画し見事に実施しました。中瀬中への母校意識と、気持ちを一つにして自分たちの姿と想いを伝えようと、最後まで走り切る姿は、1・2年生が目指す姿となりました。

その3年生たちと共にする時間も、明日の卒業式だけとなりました。でもまだあと一日もあります。保護者、地域の皆様とともに、在校生、卒業生、教職員の気持ちを合わせ、中瀬中をさらに一歩前進させていこうと思います。よろしく願いいたします。

中瀬のスキー教室は

初日は暖かかったのですが、二日目から三日目の午前中までは、雪となり、時には霧で視界が遮られる天候となりました。

でも初日に基礎をしっかり練習した生徒たちは、お互い励まし合いながら元気にトレーニングを行い、結構急な斜面でもスピードをコントロールしながら降りてこられるようになりました。

最終日は晴天で暖かくなり、素晴らしい景色を堪能しながらスキーを楽しみ「もっといたい」という声で菅平との別れを惜しむまでになりました。



<雪の中の練習>

飯盛 竜己

僕はスキーを一度もやったことがなく、骨折することもあると聞いたことがあるし、あまり楽しみではありませんでした。一日目はポニーゲレンデですと横歩きをしていました。基本を学ぶのが大事なものは分かっていたのですが、横歩きの何が大きかわかっていなくて、はっきり言って楽しくありませんでした。...

二日目、ストックをおいていくと言われて、びっくりしました。昨日はストックを使って止まったり前に進んだりできたのに、どうすればいいの?と思いました。

リフトまでたどり着き、やっとコースに出ました。ゆっくりゆっくり下りました。自分も含めほとんどの人が何回も転んでしまいました。とても怖かったです。最後はめっちゃ滑れるようになりました。

午後は別なコースに行き、曲がること、しっかり止まることもできるようになりました。怖くなくて楽しくなりました。...



<二日目 スキーが終わってお汁粉>

基本の訓練は辛いし楽しいものではあまりありません。でもそれが「意外と役に立った (By 飯盛)」のです。



<三日目は午後から天気が好転>

「チャレンジする事で前までの印象が変わることがあると実感した (By 齋藤慎之介)」

杉江 晃

菅平の雪は柔らかく、転んでも痛くなかったが、転ぶのは精神的に辛いものがあった。みかん探しは楽しかったが、ブーツに入ってしまった雪を見ると、翌日のスキーが憂鬱になった。

二日目、リフトから降りる時に転んだ。仲間が心配して手を差し伸べてくれた。午前中にはあまり転ばなくなったが、新たな不安がよぎった。急な斜面、スピードが出て、習ったことが意識できない。

自分の心に呼びかけた。
勇気を出して進んでみて

スキー板は進んだ。倒れることもなかった。あの時、勇気を出して良かったと思う。それで確かにつかんだものがあつたし、恐怖に立ち向かえる心の支えとなった。

勇気!それは、これからの人生で、嫌なことから逃げず、立ち向かっていくための道具だと知った。



<最終日は余裕が出てきました>

板倉 凜

三日目、一番大きい山に行き、怖くて動けなくなり、インストラクターさんがリフトで戻ってきて助けてくれた。精神的にきつく、足も痛く半泣きだった。そんな中、友達が「私が後ろについてあげる。」と言ってくれた。

その後、私が怖がって転びそうになると「大丈夫、大丈夫。」と不安を和らげてくれて、とても嬉しかったし、頑張ろうと思えるようになった。

四日目、最後なので笑顔で終わりたいと思った。そして見事に一度も転ばずにスキーを終えることができた。そしてスキーは楽しい、もう一度やりたいと強く思った。

助けてくれた友達やインストラクターさん、応援してくれた実習班のみんなに感謝。なにより二年生全員でスキー教室ができて良かった。

2年生の生徒たちはスキー教室で、自分から進んで、仲間と共に、「できない」「わからない」「無理」という状態を、インストラクターの言葉や手本を手がかりに、「できるかもしれない」「少しずつ分かってきた」「やってみよう」と自分で乗り越えていきました。

中瀬のスキー教室は、まさに『主体的で対話的な学びの場』でした。そしてさらに『深い学びの場』でもあったのです。それを象徴するのが2日目夜のレクの取組です。

久保 寧音

最初スキー板をブーツに付けた時、何回も転んだり、後ろに滑ったりした。横歩きで斜面を登ることさえ難しく感じ、とても焦っていた。

翌日スキー場に行った時、恩田さんを見てびっくりした。昨日は私と同じ様に、横歩きも難しそうにしていたのに、気付いたらみんなを引っ張って行くくらい上達している。

私は みんなに迷惑をかけない様、後ろですべればいいや。」ではなく、チームのみんなを超すくらい上手になりたい。」と思った。

そしてインストラクターに聞いたりしてやっているうち、私も自然にスキーができるようになった。

私は、どんな事でも、すぐにあきらめず、今の自分の力を超えて、一生懸命に挑戦していきたくと思った。...

こんなにも皆が笑い合っていたレク 高野 夏帆

2日目に行われたレクが終わって、皆から声をかけられた。「レク楽しかったよ」「レク係、お疲れ様」温かい言葉をかけられて、私はとても嬉しかった。やっと「このレクが成功するのか？」という不安が抜けていった。

12月の中旬、レク係に立候補した。他に手を挙げる人もなく、自然に決まった。その時は「楽しいものになりたい」という思いしかなかった。一回目の話し合い、二回目、三回目と過ぎ、とうとうスキー教室の一週間前になってしまった。最後にプログラムを微調整し、練習に入った。

いろいろなショーの出演者を探したが、恥ずかしい、面倒くさいなどの理由で、なかなかOKがもらえない。集めた人たちで練習はするものの、話を聞いてくれなかったり、新たな問題が発覚したりと、次から次へ大変なことが起こる。頭の中が混乱してしまっ

ところが、ふと気が付いたのだ。「一人でやらずにみんなの力を借りよう」と。それまで私は自分だけで、こうしろあしろと言ひ、指示をしているだけだった。でもそんなことではまとめられない。結果をこうしたいから、まずこれをやって、と相手に全体像を伝えてから物事を進めるべきなのだ。そしてみんなの力を借りて練習が進み、一週間なんてとぶように過ぎていった。

夕食からレクが始まるまでの準備の20分間、私はとても緊張していた。笑いが起こらなかつたらどうしよう、つまらないと言われたらどうしようと思ってしまった。時間が近づき皆がやってきた。大広間に入る時も騒がしく、こちらの話しているのかさえ分からない。

照明が消え、オープニングが始まった。そこからエンディングになるまで退屈していることは一時もなかった。普段、あまり表に出ることの無い人たち一人一人の特徴を知ることができた。そしてみんな、ショーを見ている人に楽しんでもらうために、笑われたり恥ずかしかったりしても、その役をやり通していた。

その場にいる誰もが共通した一つのことについて見聞きし、笑っている。以前にもあったかもしれないが、今回の雰囲気は格段に良かった。なぜなら生徒たちで作上げたものだから。企画から運営にいたるまで私たち生徒の手によってできたレクなのだ。仲間が楽しめるようにと努力したレクなのだ。

こんなにも笑い、楽しかったレクは中学校生活で最初。そして2年生だけで、広い場所とたくさんの時間が取れる機会は、もうないだろう。スキー教室で、この仲間たちだからできたレク、この企画に携わることができ、本当に良かった。

生徒会役員としても、この調子で「3年生を送る会」を終えられるように、感じたこと、やってきたことを活かしたい。



<演目は吹奏楽とダンスのコラボ、男装女装漫才、TWICE ダンス、バンド>

銀世界 不安がつもる 初スキー
友と笑えば ハの字の足あと
はるか

友達の 知らなかった裏の顔
本音話して 親睦深める
アルパカ

雪の上 滑る快感 気付いたら
それがスキーにはまる瞬間
長嶋 倫史

消灯後 やっぱりききたか 恋バナだ
今更知ったの?! その情報
わさび

国語の時間に作った短歌、学習作品展で展示

絵本の読み聞かせ～八成小～

2月27日(水)学年末考査の最終日に、図書委員会の代表生徒7名が八成小学校の1年生の3クラスで、国語の授業「むかしばなしをたのしもう」で絵本の読み聞かせを行いました。

11月に桃井第五小学校で行った取組の続きです。どのクラスの子ども達も、最初のクイズに一生懸命考えて、元気に答えていました。また絵本の読み聞かせの時も真剣に聞いていました。

終わった後の休み時間も、教室や廊下で図書委員たちは子供たちに囲まれていました。一階の廊下に、子供たちからのお礼のメッセージの模造紙が貼られています。来年度は沓掛小学校でも実施する予定です。



三年 宮丸 幸士
僕は三年生だったので、あまり練習に参加できなかったが、みんな上手に読み聞かせができていたと思う。自分の負担の「なぞなぞ」では、小学一年生たちが、元気に答えてくれたので、とてもやりやすかった。緊張はするかもしれないが、小学生はきちんと反応してくれるし、小学生にも中学生にとっても良い体験になるので、これからもよみかかせは続けていくと良いと思っ

二年 小松 皇太
最初やると聞いた時は、嫌でした。僕は読み聞かせをしたことが一回もなかったの

ですが、練習を重ねていくと、いつの間にか人前でもちやんとできるようになりました。

本番では、一年生の前でも緊張しましたが、それをこらえて『三匹のこぶた』を読んできくと、一年生たちはみんな、とても一生懸命に聞いてくれました。

読み聞かせをして、とても嬉しかったし、良い体験になりました。

3～4月の予定 ⑤…スクールカウンセラー出勤予定日

日	月	火	水	木	金	土
3/17	18	⑤ 19	20	21	22	23
	三年生を送る会 9:45～体育館	卒業式 9:50 開式	専門・中央委員会	春分の日	全校美化 球技大会1,2年	
24	職員会議 修了式	25	26	27	28	29
		春季休業日始				30
31	4/1	2	3	職員会議 4	職員会議 5	6
					春季休業日終	
7	8	9	10	11	12	13
	着任式・始業式	入学式	午前授業 午後研修	新入生歓迎会	身体計測	
14	朝礼 15	⑤ 16	職員会議 17	18	19	20
	全校保護者会 14:00～		眼科検診	全国学力調査 3年		ICT公開授業
21	22	⑤ 23	24	25	26	27
		内科検診3年		内科検診2年	離任式	

<5月の予定>

4/27(土)～5/6(月) 10連休、7(火)～13(月) 教育相談、8(水) 区特定調査、13(月) 3年中間考査
14(火) 体育大会準備期間、いのちの教育、22(水) 体育大会予行、25(土) 体育大会～予備日は27(月)
修学旅行は6/5(水)～7(金)

【お知らせ】 70周年の記念誌が完成し、3月15日(金)に全校生徒に配布されました。記念式典の映像のDVDも付いています。なお、P30の平成27年度着任の中の小林 愛 教諭の離任の年月日がH30.5.1になっているのは、H31.3.31の間違いです。訂正願います。